NEWS RELEASE

学校法人 立命館

2025. 2. 4

報道関係者各位　　＜配信枚数1枚＞

年度あたり約 1.3 億円の臨時奨励金制度　円安の影響による海外留学離れを防止
為替変動に対応した海外留学支援策で、海外留学をあきらめない学生生活を応援！

学校法人立命館（京都府京都市、総長：仲谷善雄　以下、立命館）は、近年の為替変動の影響で海外留学プログラムへの参加の経済的負担が大きくなっている状況に鑑み、2025～2026 年度に募集する海外留学プログラムに対し、為替変動・水準に対応する経済的支援策を実施することを決定しました。

この奨励金制度は 1 年度あたり 1.3 億円（2025、2026 年度合計で 2.6 億円）を予定しており、本学園（立命館大学、立命館アジア太平洋大学、各附属校）が実施する約 100 の海外留学プログラムに参加する大学生と、小学校、中学校、高校の附属校生が利用することができます。参加者が負担するプログラム料を、現在のレートよりも有利な（円高水準での）固定の換算為替レートを用いることで、参加者の経済的負担を軽減します。

コロナ禍で停滞したグローバルな人流が徐々に回復し、各国が国境を越えて人材獲得を進めています。新たな価値を創造し、日本の成長をけん引する高度人材には、グローバルな視点や経験が必要不可欠です。政府は、次世代のグローバル人材を育成するうえで、異文化理解、国際的素養の涵養、国境を越えた幅広い人的ネットワークが形成できる海外留学や留学生受入れが非常に重要であることを提言しています（令和 5 年 4 月 27 日 教育未来創造会議「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ　（第二次提言）」）。

立命館は、新型コロナウイルスの影響で一時中止していた海外留学プログラムを 2023 年度から本格的に再開し、参加者数もコロナ禍以前の水準に回復しました。これは、大学生および小学校、中学校、高校の附属校生が学びと成長の貴重な機会として海外留学に対する高い関心と意欲を持っていることを示しています。立命館はこれまでもグローバル人材育成を推進し、海外留学プログラムへの支援を実施してきました。（立命館大学海外留学プログラム奨学金 3.55 億円）。

しかしながら、為替変動という、いわばプログラムの質に関わらない要因によって、海外留学の経済的負担が急激に重くなっている状況にあります。さらに、受け入れ機関（海外大学等）が設定するプログラム費の上昇も重なり、進学・入学時点から実際に参加するまでの間（2～3 年間）に経済的負担の水準が想定を大きく超えてしまっています。このような現状は、プログラムの参加を断念・躊躇する要因となり、結果として、本学園における学びと成長の可能性・選択肢を狭めてしまう問題と言えます。

本施策により、意欲がありながらも、経済的な負担が理由で留学をためらう大学生、小学生、中学・高校生の挑戦を後押しし、グローバル人材の育成を促進します。

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、大分県政記者室、別府市役所市政記者クラブ、京都教育記者クラブ

●本件に関するお問い合わせ先
学校法人立命館　広報課　担当:勝屋 TEL:075-813-8300　FAX:075-813-8147